

九州大学大学院経済学府修士学位論文審査基準

(審査体制)

学位論文の審査は、主査1名及び副査1名以上の審査委員の個別評点（100点満点）をもとに合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文の問題設定が明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して、当該主題に関わる先行研究が適切に提示され、精確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、理論、実証、実験、シミュレーション、調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。

4. 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が当該分野において、新規性を持った学術的貢献や高い有用性のある社会貢献となっているか。

5. 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用ないし参照指示され、図表等の作成に用いた資史料等の出所は明らかにされているか。

(評価基準)

上記1～5の評価項目すべてについて、経済学修士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。

九州大学大学院経済学府博士学位論文審査基準

(審査体制)

学位論文の審査は、主査1名及び副査2名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文の問題設定が、当該分野の学問的蓄積を踏まえて明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して、当該主題に関わる先行研究が適切に提示され、それらの精確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、理論、実証、実験、シミュレーション、調査あるいは資料収集などの研究方法が適切かつ効果的に用いられているか。

4. 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、明確で実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が当該分野において、新規性、独創性を持った学術的貢献や高い有用性のある社会貢献となっているか。

5. 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用ないし参照指示され、図表等の作成に用いた資史料等の出所は明らかにされているか。

(評価基準)

上記1～5の評価項目すべてについて、博士（経済学）学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。